

鳥取県立八頭高等学校  
 学校長 中島 靖雄

評 価 日	平成31年1月25日 (金)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p><b>1. 本年度の取組・目標達成状況について</b></p> <p><b>(1) 八頭高の魅力の発信について</b>                      中学生には八頭高の良さをもっと知ってもらいたい。夏季休業期間の一日体験、八頭郡内中学生対象の「八頭高ライフ体験」等継続的に実施しているが、内容がマンネリ化してきている。学習成果の発表を中学生でも理解しやすい構成とするとともに、八頭高の魅力をしっかり訴えられるよう内容を充実させてほしい。また、八頭高生が自校の魅力を簡潔に話せる力もつけてもらいたい。</p> <p><b>(2) 主体的・対話的・深い学びの推進について</b>                      タブレット端末を年次計画で継続的に整備し、生徒が1台ずつ活用できる環境を。ただ、タブレット端末の導入だけで高次の学びが担保されるわけではなく、もっと上手に活用することが必要である。学びの基本は教員と生徒との信頼関係であることを忘れてはならない。生徒が視覚教材ばかり注目するのではなく、教員の目を見て、教員の言葉を聞いて学習する授業であってほしい。</p> <p><b>(3) 地域連携、高大接続について</b>                      「働き方改革」が叫ばれる中、一方で学力向上も求められていると承知している。退職教員等の地域人材を活用した放課後の学習支援を検討してはどうか。また、進学実績も課題とこのことだが、近接地域内にある公立鳥取環境大学と、学習活動の連携のみならず、実績のある部活動と大学スポーツとが連携した高大接続を模索してはどうか。</p> <p><b>2. 来年度の学校裁量予算等について</b>                      特になし</p> <p><b>3. その他</b></p> <p>(1) 清掃活動で地域の美化に貢献することは有意義だが、校内で「自分のゴミは持ち帰り」と指導した結果、生徒がコンビニのゴミ箱に入れて帰ることがないように指導を願いたい。</p> <p>(2) 県外進学者がUターンしてくれるよう、地元の仕事についても学んでおいてもらいたい。</p>	<p><b>1.</b></p> <p>(1) 中学生対象の体験行事については、学校説明が中心となっており、改善の余地がある。中学生目線で魅力と感じられる行事となるよう、八頭高生自身の発信活動としていきたい。また、自校の魅力を常時伝えられる表現力も養いたい。</p> <p>(2) 教員全員のタブレット端末活用のため活用モデルの創出、共有が必要。教員と生徒とがしっかり関わることを基本としながら、生徒どうしがタブレットで双方向の意見交換を行える等効果的な授業を展開していきたい。</p> <p>(3) 八頭高の施設を開放し、中学生も含めて学習支援をいただけるなら検討したい。公立鳥取環境大学とのスポーツでの接続は現状では難しいが、何らかの連携は模索したい。</p> <p><b>3.</b></p> <p>(1) 生徒会執行部等がゴミ捨てのマナーを呼び掛けてくれている。教員もしっかり指導したい。</p> <p>(2) キャリアデザインの指導内容に、地元の仕事についても加えて、進学後の就職活動にUターンも積極的に考えさせたい。</p>	

